

## 第28回 記者懇談会実施概要

- 1 日 時 平成15年5月15日(木) 15時～
- 2 場 所 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内 容 (1) 研究発表(15:00～15:40)
- ・大津留智恵子 法学部教授  
発表テーマ「危機下のアメリカ民主主義」資料1
  - ・前田 裕 工学部教授  
発表テーマ「同時摂動型最適化法とその応用  
ー学習する半導体回路を目指してー」資料2
- (2) 質疑応答(15:40～16:00)
- (3) 学内状況説明・情報交換(16:00～16:30)
- ア 文学部の学科再編について 資料3
  - イ 工学部電気工学科の学科名称変更について 資料4
  - ウ 2004年度入学試験の実施概要について 資料5
  - エ 工学部先端マテリアル工学科のJABEEからの認定について
  - オ 「科学研究費申請奨励研究費」制度の導入について 資料6
  - カ スポーツ振興基金の創設について
  - キ 学術フロンティア推進事業の選定について 資料7
  - ク 産学連携研究推進事業の選定について 資料8
  - ケ オープン・リサーチ・センター整備事業の選定について 資料9
  - コ 大阪府教育委員会及び神戸市教育委員会との連携協力に関する  
協定締結について 資料10
  - サ 金沢大学との双方向授業の実施について 資料11
  - セ 永田学長の「特色ある大学教育支援プログラム」実施委員会  
委員就任について 資料12
- 4 大学側出席者  
永田眞三郎学長、藤田武良副学長、芝井敬司文学部長、大和正史学長補佐  
大津留智恵子法学部教授、前田 裕工学部教授、中尾正司企画室長、藤本清高広報課長

### 5 参考資料

- (1) 第1回ソシオネットワーク戦略研究国際会議 リーフレット
- (2) 関西大学通信第308号
- (3) エクステンション・リードセンター開講講座受講申込状況(2002年度)
- (4) エクステンション・リードセンター2003年度講座案内
- (5) 大学の授業研究ビデオシリーズ第5巻ー演習篇「英語コミュニケーション」ー
- (6) 関西大学総合案内2003
- (7) 望月通子著『日本語教育学の新視座ー日本語教育・国語教育・英語教育のインターフェイサー』  
(関西大学出版部発行)

## 危機下のアメリカ民主主義

法学部教授 大津留 智恵子

9・11 事件以来アメリカ社会は戦時下にあると言える。イラク攻撃に際しては「銃後 (home front)」という言葉を使ってアメリカ社会が一丸となることが求められた。ブッシュ政権が「テロとの戦争」を大上段に掲げ、新設の国土防衛省のもとに「自由部隊(Freedom Corps)」という奉仕活動プログラムを通して市民社会を動員しようとしている様子は、1950 年代の核攻撃の恐怖の下で行われた市民防衛と共通するところが大きい。アメリカ人としての市民意識を高めることで草の根民主主義を活性化しようとする方向性自体は、先進国に共通する「観戦型」民主主義を「参加型」に是正するものとして支持されている。しかし、アメリカの民主主義の根幹である市民的自由が愛国法を始めとする政府の規制の下に置かれ、アメリカが大切にしてきた多文化主義の原則が「内なる敵」捜しの中で押し曲げられている現状は、アメリカ的民主主義の後退に等しい。本報告では「自由部隊」の活動を事例として上からの市民意識の動員と草の根のレベルでの市民社会の対応を紹介し、アメリカの民主主義の本質を考察していきたい。

### プロフィール

1981 年東京外国語大学外国語学部卒、1983 年ジョンス・ホプキンス大学高等国際関係大学院 M.A.、1984 年東京大学大学院国際学修士、1987 年東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。1987 年大阪教育大学教育学部講師、1996 年国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授、2002 年より本学法学部教授（国際政治学担当）。1992 年フルブライト交換教授、1992-1993 年文部省在外研究員、1997 年安倍フェローとしてアメリカにおいて在外研究。アメリカの民主主義の理念と現実に関する研究を続けており、近年は市民社会のレベルで「市民」がいかに形成されるかを中心として事例研究をおこなっている。最近の出版物として『アメリカのナショナリズムと市民像』（共編著、近刊）、*"We the People" in the Global Age* (co-editor, 2002)、『戦後アメリカ外交史』（分担執筆、2002 年）、『アメリカが語る民主主義』（共編著、2000 年）、『アメリカの多民族体制』（分担執筆、2000 年）、『現代アメリカ政治の変容』（分担執筆、1999 年）、論説として「イラク攻撃が示唆する国際社会の方向性」『論座』（2003 年 5 月号）、「力に頼らない正義を」『毎日新聞（東京版）』（2003 年 3 月 27 日夕刊、インタビュー）など。

# 同時摂動型最適化法とその応用 — 学習する半導体回路を目指して —

工学部教授 前田 裕

騒音の抑制や制御をはじめとする多くの問題は、ある関数の最適な点を求める問題に帰着することができる。同時摂動型最適化法は、従来手法と異なり、調整する係数が多い場合でも、ひとつあるいはふたつの関数の値のみから最適値を求める逐次的求解法である。従来手法では適用が困難な種々の問題に、この手法は適用可能である。この懇談会では、この手法の応用例について紹介したい。

- 複数の混ざり合った信号をもとの信号に復元するブラインド信号分離への応用。
- ニューラルネットワークのLSI化。学習する電子回路。
- スピーカーから音を出して騒音源の音を打ち消し騒音の抑制を行う能動騒音制御への応用。空港や道路、工場などの騒音の抑制への可能性を探っている。
- 柔軟な素材からなるロボットアームの制御への応用。軽量の素材をロボットに用いることができれば、その軽量化や省エネ化がはかれ、安全性も増すであろう。

特に、ブラインド信号分離、ロボットの制御への応用例では、その適用結果を具体的に示したいと思う。

## プロフィール

1981年大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了。府立工業高校の教諭を経て、1988年4月、助手として関西大学に着任。専任講師、助教授を経て、現在、工学部教授。この間、在外研究のためカリフォルニア大学アーバイン校に客員研究員として1年間滞在。工学博士。関西大学ハイテクリサーチセンター研究員。

専門は電子制御工学で、ニューラルネットワークや確率近似法に関する研究をすすめている。最近では、同時摂動型といわれる最適化手法を提案しており、この手法の騒音抑制、フレキシブルアームの制御、ブラインド信号処理などへの応用に関する研究を行っている。ニューラルネットワークのLSI化や学習に関する研究も行っており、研究成果は国際会議でも発表している。